

## 平成 30 年度 姉妹校等留学プログラム

## 平成 30 年度カナダ国際交流プログラム

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立みなと総合高等学校/海外研修（2人）

### (2) 渡航先

国/都市：カナダ/バンクーバー市

外国の高校：ブリタニア・セカンダリー・スクール

### (3) 期間

平成 31 年 2 月 16 日～平成 31 年 2 月 22 日（7日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

指導の重点として掲げる「国際交流を通じて相互理解力やコミュニケーション力を高める教育」の実践の場として海外の姉妹校との交流を行い、国際性を高める教育を推進する。また、参加生徒たちが帰国後に国際交流のリーダーとして活躍していくための素養を養う。

### (5) 活動内容

カナダのバンクーバー市に滞在し、姉妹校ブリタニア・セカンダリー校や交流校ヴァンテック校での高校生活、およびバンクーバー市民宅でのホームステイ体験を通して相互に理解を深め、視野を広げ、他者を尊重する精神を育むことを目的としたプログラムである。

- 1、2日目：ホストファミリー宅で休日を過ごす
- 3日目：ブリタニア・セカンダリー校バディと市内研修
- 4日目：ヴァンテック校訪問、授業体験
- 5日目：ブリタニア・セカンダリー校訪問、授業体験  
アイススケート体験、すしワークショップで共同作業
- 6日目：UBCキャンパス見学

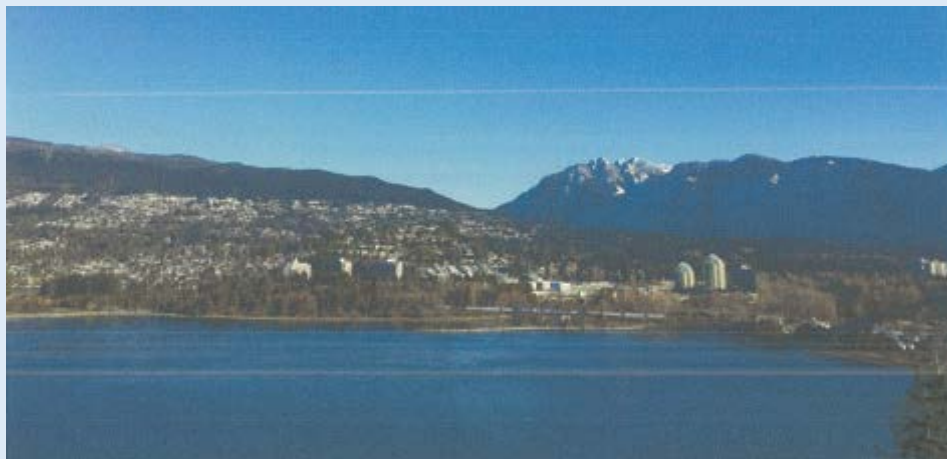
帰国後は校内での国際理解講演会で全校生徒にプログラムの報告をし、またパネル作成を通じて、体験を通して得た事などを発表した。今回参加した生徒が今後も国際理解交流のリーダーとして校内外で活躍する事を期待する。

## (6)実績・成果

### ○派遣高校生 HYさん

私は今回、「カナダ国際交流プログラム」に参加するにあたって、大きな目標を2つ立てた。1つ目は、都市学を学ぶことだ。私はみなとみらいの、ビルが立ち並びながらもどこか統一性のある街並みがすごく好きで、都市開発に興味を持つようになり、このプログラムに参加し、日本だけでなく世界の都市に目を向けることで、日本との違いを発見したいと思い、参加を決意した。

実際にバンクーバーを訪ねてみて、たくさんの相違点があった。まず、大きく違っていた点は、「自然との距離感」だ。一日目の朝、飛行機を降りて最初に感じた印象は、山や森に囲まれた自然の豊かな国だった。連なる山々は、白い雪に覆われた山肌が鮮明に見えるほど近く、日本で見るよりも何倍も迫力があつた。また、現地の学生も、休日にはハイキングやカヌーを楽しむという話を耳にしたり、バスに乗って市内観光をしている際、朝の寒い街や公園の中をロードバイクで走っている人を多く見かけたことから、バンクーバーは、日本よりもただ自然が豊かなだけではなく、住んでいる人々も自然と関わることにに対して積極的だということが分かった。



さらに私は、このことにはもう一つ理由があると感じた。それは、バンクーバーでは、都市部と自然がうまく融合しているということだ。日本では、都市部は都市部として確立し、自然が豊かな町は、都市部と離れてしまっている傾向にある。例えば、私の通う高校のまわりには、高層マンションやショッピングモールなどが多く建ち並び、森や山など、自然を感じるものを見る機会はバンクーバーに比べてかなり少ない。そのため、私はこのプログラムに参加するまで、自分の学校や家の周りに自然があるかどうかなど気にしたことがなかった。このように、都市部で生活をしている人々は、自然を目にする機会が極端に少なく、すぐ行ける距離に大きな公園や、森があることがあまりないため、自然に消極的なイメージを持ってしまうのは仕方ないことなのではないか。その点でいうと、バンクーバーは企業や店が並んでいるすぐそばに自然があるため、普段から自然を見てリフレッシュしたり、休日には近くの公園や山、川などに出掛けたりすることができ、自然との関わりが深くなる原因になっているのだと考えた。

これらのことから、今の日本では、都市部と自然の豊かな地域が完全に分離してしまっていると考え、改善していかなければいけない課題であると感じた。そして、都市学の目線から見ると、もう1つ大きな相違点があった。姉妹校に向かうバスの中で、インストラクターの方が「バンクーバーでは、バンクーバーで生まれ育った人たちがたくさん働いている。」とおっしゃっていた。実際に私のホストマザーも、14歳の時にバンクーバーに移り住み、今も自分が育ったこの町で働きながら、家族みんなでバンクーバーにて生活している。しかし現代の日本では、進学先や就職先の不足から、自分が生まれ育った都市を離れて上京する、いわゆる地方離れが年々増加の傾向にある。また、「ドーナツ化現象」も深刻化しており、郊外に住みながら、都市部に働きに出ている人が増えているのも現状だ。

これらの課題を解決するには、まず自分の地域、そして互いの地域について教養を深め合い、理解していくことが第一歩になるのではないだろうか。自分の都市のことはもちろん、自分が行ったことのない都道府県のことでも理解することによって、その町の特徴や魅力を新たに知ることができ、地方都市の再生、並びに都市部の人口集中を避ける事にもつながると私は考えた。

そして、2つ目の目標は、バンクーバーの学校見学を通して、外国と日本の教育や学校生活について考えることだ。私は1年次の頃から学級委員会に所属していて、どうしたら学校生活がより良くなるかを考えてきたが、今回のプログラムに参加する際に、前年度に参加した先輩方が、学校は特に日本と違うとおっしゃっていたのを聞いて、外国の学校には日本とどのような違いがあるのかを自分の目で見てみたいと思った。

実際に学校を訪ねてみて、一番感銘を受けたのは、学生たちの自主性だ。特に私が印象に残っているのは、現地のバディリーダーがみんなのことをはっきりと注意していたことだ。私は、ほかの生徒が説明を聞いていなかったり、ふざけていたりしても、周りの目を気にしてしまい、あまり注意することができない。しかし、カナダの学校のリーダーは、顔色など窺わず、自主的にみんなを注意して、その場を静かにすることができていた。授業中も寝ている人は誰一人おらず、先生が質問をすれば、だれかひとりが当てられる前に何人もの生徒が手を挙げ発言していた。しかし、授業中に飲食していたり、立ち歩いたりしている光景を見かけることも多くあった。だが、先生たちが注意する様子もなく、みんな平然としていた。このような光景は普段はなかなか見る機会がなく、日本との違いに圧倒された。そして、この光景をよく思わない人がいるのも事実だ。

ホストファミリーとこの件について討論した時に、ホストファザーも、ホストマザーも、カナディアンのような行為はととてもだらしく見えると言っていた。さらに、アジア系のホストマザーは、「もし自国で授業中に飲食するとしたら、他の生徒にもおひとついかがですか、など一言言ってから食べるのが常識だ。誰も、ではもらいます、とは言わないが、そうやって断りをいれるのがルールだからだ。しかし、カナダの人はもし自分だけ飲食しているとしても、誰も何も言わない。自分のものは自分のものという考え方なのだ。また、自国では、もし誰かが筆箱を忘れてきてしまったのがわかったら、その人が言う前に、ペンを貸しましょうかと声をかけるが、カナダの人はそうではない。何事も自分から動かなければならないのだ。」と言っていた。日本にも、おもてなしという文化が根付いており、ホストマザーが言っていたように、もし誰かが困っていたら、何も聞かれなくても助けてあげることが当たり前だと考えられている。

このように、私は今回のプログラムに参加し、2つの目標を達成することができた。そして、様々な観点から日本とカナダを比較してみて、日本とカナダの双方に共通して必要なものがあると感じた。それは、まず他者を理解する努力をする気持ちだ。都市学の観点からみると、現代の日本では、都市部と地方都市の関わりが極端に少なく、互いの地域のことを理解することができていない。また、反対に学校生活から垣間見えたのが、カナダは個人主義が主流だという風潮だ。そのため、どちらの国も他者を思いやり、理解し合うことが、これらの問題に限らず、多くの課題を乗り越えるための第一歩になるのではないか。そしてこれは、私たち高校生にもできる事なので、ぜひこのような気持ちを持って人と接していきたい。

また、「若者応援事業」を通してこのような機会を与えてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいだ。今回学んだことを活かして、都市学をより深く学び、将来は地方の活性化や、都市の発展に貢献する人になっていきたい。



## ○派遣高校生 RKさん

私はこのプログラムにある目標を持って参加しました。その目標は「現地の高校生やホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとる」ことです。

結論からいうと、私は目標を達成することができました。自分の英語力を試したいという理由でこの目標を立てましたが、目標以外のことを多く学びました。今回のプログラムで感じたことや学んだこと、日本との違い、それをどのように活かすべきかについてまとめていきます。

### 1. カナダの家族

日本との違いを一番感じたのはホームステイ先での生活です。特に夕食で驚いたことがあります。

- ・ご飯の準備は家族全員です
- ・家族全員が揃ってから夕食を食べ、全員が食べ終わるまで待つ
- ・夕食中はその日の出来事を話し、それに対する質問や意見を交換する

この三つが夕食について驚いた点です。

また、私のホームステイ先では夕食中にテレビではなく、BGMに音楽をかけて、食べながら一人一人がその日の出来事を話していました。

ご飯の準備を手伝うことは日本でもありますが、家族総出で、というのは珍しいと思いました。日本の家庭では、父親が夜遅くまで働いていたり、共働きだったり家族揃って食事をするというのが難しいという印象があります。また、日本には女性は家事、男性は仕事といった固定観念のようなものがあるように思えます。しかしカナダでは男女関係なく母親の手伝いをしているとわかりました。

また、1日目の夕食でいつも通り黙って食事をしていたら、なぜそんなに静かなのか、と聞かれました。日本でもにぎやかに話しながら食事をする家庭もあると思いますが、私はテレビを見ながら黙々と食事を済ませるのが当たり前だったので、そのような質問をされたときは驚きました。そこでカナダではその日の出来事についてみんなで話すのが普通だと教えてもらいました。またカナダの学校のバディの家庭でも同じだと教えてもらいました。そこで私は、住んでいる横浜や学校について話しました。横浜の観光場所やその魅力について説明したり、私がよく行く場所や何をしようか、流行は何かなどたくさん話をしました。私が通う高校のすぐ近くには中華街や山下公園があるので、横浜の中でも特にその地域について話しました。自分の話に興味を持って聞いてくれて、質問をしてくれ、また自分の住む土地について知ってくれてうれしかったです。

私は、ホームステイ先で本来の家族の形を目の当たりにした気がします。特に夕食中みんなでその日の出来事を話し、質問や意見を交換するのは自分の家族について知ることができるので実践すべきだと思いました。

### 2. カナダの学校

カナダでは2つの学校で授業体験をしました。2つの学校を比較して特に違った点はありませんでしたが、日本の学校と比較すると全然違いました。

まず学校全体を見て気が付いたのは、様々な国の子どもがいるということです。カナダは移民の国であるということを実感しました。そこで私が一番感じたのは、差別についてです。1つの学校でのバディは中国系の子でしたが、友達と国関係なしに仲良くしている印象を受けました。廊下を歩いていて見かけたグループはほぼ全員と言っていいほど様々な国の子どもたちで構成されていました。日本だけの問題ではありませんが、人種差別はよく耳にする問題です。しかしカナダの学校で人種差別は少しも感じませんでした。そのため、校内でたくさんの子が話しかけてくれて、とても良い

環境だと思いました。また、学年や男女の壁があまりないと感じました。男女の区別がはっきりしたり、上下関係の厳しい日本と違ってフレンドリーで過ごしやすかったです。日本ではこのような点において変に気を遣う場面が多いということを、カナダの学校で過ごして改めて感じました。

なぜ人種差別や男女の区別をすることがあるのだろうかという疑問を持ちましたが、何度考えても差別をすることに利点はありません。世界から差別をなくすにはやはり環境が大事であると考えます。先ほど言ったように、カナダは移民の国です。もともと様々な国の人たちと生活しているため、それが当たり前となって人種差別が起きないのだと思いました。それに比べて移民の少ない国ではその国の血を引いていない人がいたときに、自分とは違うと判断し差別が起きるのだと考えました。みんな同じ人間だという意識を強く持てば差別はなくなるのではないかと思います。

カナダの学校は日本の大学のようにでした。学校の施設や授業の種類、方法が日本の大学に似ていました。また、一番思ったことは、基本的に授業のスタイルが日本と違うということです。カナダでは授業中の発言が活発でみんな積極的に授業に参加していました。また、寝ている人が一人もいませんでした。カナダに行く前に、授業中に寝てはいけないと聞いていましたが、本当に寝ている人がいないなんて思ってもみませんでした。日本も授業中に寝ることはもちろんいけないことですが、よく見る光景です。私はカナダの学校で授業を受けてみて、なぜ授業中に寝ている人がいないのかわかりました。そのわけは、授業の方法や環境にあると考えます。そのように考えた根拠がいくつかあります。

1つ目は授業の方法です。私は2つの学校で合わせて6つの授業を受けました。実技科目以外のすべての授業でスクリーンを使っていました。日本でも映像授業というものがありますが、ただ映像を見せているだけでは余計に眠くなってしまいます。しかしそうではなくて、非常に短く、理解を深めるための映像でした。日本では黒板に板書する、書く授業が多いです。カナダでは書くよりも目で見て実践する授業が基本でした。

2つ目は、ディスカッションが多いということです。多くの授業が生徒主体で行われていました。ディスカッションをすることで自分の意見を発信する場所が設けられるし、自分とは違う考え方の人の意見を聞くことができます。それにより視野が広がるので良い授業だと思いました。日本人の引っ込み思案な性格のせいだとは思いますが、発言が少なくなかなか意見を述べたり聞いたりする機会がないのだと思います。

3つ目は、授業中の自由さです。授業を受けていてよく思ったのが、自由だな、ということです。この自由というのは自由奔放という意味ではありません。授業中に席を立ち歩いたり、そもそも席が自由席だったり、携帯を使って調べ物をしたりしていたのが印象的です。自由すぎるのはよくないという人もいますが、カナダでの授業はよい意味での自由でした。また、日本の授業は固すぎると気が付きました。

このようなことからカナダでの授業のほうが勉強するのに適していると思います。



### 3. カナダでの生活

カナダはとても過ごしやすく、私の理想の国でした。

カナダでの生活はゆったりしていました。日本での生活は毎日せわしないです。私のホストファミリーの中に最近まで日本に留学していた人がいたので、日本とカナダについて話していました。その話しの中でも、日本はとても忙しいけどカナダはリラックスしている、と言っていました。時間が過ぎるのが日本に比べてゆっくり感じたほどです。この事実は、その国に住んでいる人の人柄にも関係していると考えます。日本人は親切だと言われています。私もそれは事実だと思います。これは自論なのですが、日本人は親切だけど、それは自分の周りの人に対してであり他人にも親切であるとは言い切れないと思います。ここでもう1つ、カナダで過ごしていて感じたことは、みんな思いやりがあって優しいということです。私が感じたのは、他人にも優しく親切にしてくれるということです。カナダで困ったことがあった時、私は必ず誰かに助けてもらっていたことに気が付きました。前から社交的なイメージがありましたが、それだけではなく思いやりのある国だと実感しました。日本人はやはり引っ込み思案な性格のために勇気が出なかつたりして、その親切を行動に移せないのではないか、と思います。

カナダでいろいろな人と交流してみて、みんな自分を持っていると感じました。それぞれが自分を持っていることはとても良いことだと思います。たとえそこで自分とは正反対の意見があってもそれを否定することはなく、受け入れるというスタンスが私はとても気に入りました。そのような意味でも自分に自信が持ててカナダは過ごしやすかったです。日本では自分の思ったことを表に出しすぎると、自分勝手というような悪い印象を持たれがちだと思います。その考え方はカナダに行く前から理解できませんでしたが、自分も無意識に他の意見を批判していたように思います。自分は自分、人は人、ということを念頭に置いて過ごすほうが平和ではないでしょうか。カナダで生活して、自分を持つ、という言葉の意味について改めて考えさせられました。

最後に、カナダでの生活で一番聞いたのではないかと思います。それは”Thank you.”です。どこにいてもこの言葉を聞きました。私はありがとう、と感謝をするのを心がけています。しかしよく考えてみると、カナダにいたときに意識してこの言葉を使いませんでした。感謝されると気分はいいですし、逆に相手に心から感謝を伝えるのも気持ちがよかったです。

### 4. 今回のプログラムについて

今回のプログラムで、私は多くのことを学びました。ここまでまとめてきたカナダでの体験を通して、私の目標は達成されました。そして、それ以上の収穫がありました。

現地の高校生やホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとり、言葉の壁を超える、という貴重な体験をしました。この体験はこれからの私の人生に大きな影響を与えるはずだと思います。そして、国際化が進んでいく日本に対応できる人間になっていきたいと強く思いました。英語力がもちろんですが、それよりも人間力、コミュニケーション力を伸ばしていきたいです。このプログラムでカナダに行って、私の考え方が少し前向きになりました。日本で生活している以上、これまでの生活を一変させることは難しいですが、少しずつでも自分の周りの環境をより良いものに変えていきたいと思います。自分の思ったことを実践する行動力もカナダで交流した方たちを見本にして活かしたいです。

また、このプログラムに参加するために支援くださった方々や私たちを快く受け入れてくれたホストファミリーやバディには感謝の気持ちでいっぱいです。

今回学んだことを活かして、これからまた国際交流に力を入れていこうと思います。